

2190

保存期限		決裁指定		決行指定	
受番		件名		大臣	
領額		天		軍	
號		皇陛下海軍演習御覽ノ節小笠原及奄美大島ノ行政ノ件		軍事課第二六號	
受領		四七四		軍事課第二六號	
受領		起元應(課名)		軍事課	
提出		大正		大正	
提出		七年七月九日		七年七月九日	
受領		大正		大正	
受領		七年七月九日		七年七月九日	
了結		大正		大正	
了結		七年七月九日		七年七月九日	
房官		局長		局長	
大臣		主務局長		主務局長	
課		次官		高級副官	
局		政務次官		參與官	
務		書記官		書記官	
主		主務副官		主務副官	
番		主務課員		主務課員	
號		官房御用掛		官房御用掛	

政務次官回付

決裁後

課名

軍事課

軍事課

軍事課

軍事課

軍事課

軍事課

軍事課

軍事課

軍事課

軍事課

省 2.7.13 時

省 2.7.12 時

省 2.7.11 時

省 2.7.11 時

省 2.7.11 時

長

長

8190

副官より第一第六師を参謀長及憲

兵司令官の道標業

(法密)

天皇陛下今夏海軍遠征御覽ノ節概不
別紙御豫定ヲ以テ行幸可成爲在ニ付不取敢
内報ス

本御豫定ニ未ク確定的ノモノニアラサルモ又島及

奄美大島兩要塞司令部ニ行幸可成爲在

具置ニ要塞司令官より要塞ノ概況ヲ簡單

ニ奏上スル儀ニ付豫メ準備アリ度

又奄美大島ニ在リテニ要塞司令部ニ於テ一夜

官民ノ拜謁ヲモ受ケセラルル御豫定ノ由ニ

付為念

追テ今回ノ行幸ハ康アルモノニ無之海上御巡遊
ノ序ヲ以テ上陸アラセラルル儀ニ付萬事ノ間
易シ旨トセラルルモノニシテ特別ノ設備等ハ
行フニ及ハサル儀ト承知アリ度申添フ

(注意)一、第一師團行ニ付
ニ、憲兵司令官行ニ付

陸軍省

統制部

陸軍省

陸軍

天皇陛下行幸御日取豫定

七月二十八日 御出發

三十日 朝 父島見渡御著

御上陸

夜 御假泊。天候ニ依リテ同夕御出港

三十一日 朝 母島御著

御上陸

八月一日 朝 母島御出港

但三十日夕迄天候等ノ關係上上陸御不能

ノ場合三十三日御出港有明灣ニ向ハセラル

一日 夕 有明灣御著

二日	志布志(有明湾北岸)ニ御上陸アルヤモ知ス
二日	有明湾御出港
三日	朝 佐伯湾御著
四日	艦砲射撃御覽
五日	朝 佐伯湾御出港途中演習御覽ノ後奄美 大島へ
六日	天候有利ナレハ午後名瀬ニ御上陸同日夕 古仁屋ニ御著
七日	古仁屋ニ御上陸以後御隨意
九日	横須賀御著

0623

陸軍省



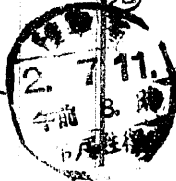
陸



陸軍省 第四七四號

三三三

納見

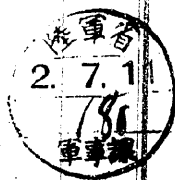


天皇陛下富地行幸關ヶ照會

昭和二十一年七月十一日

交島要塞司令部

支隊十六



陸軍省高級副官中村孝太郎殿

天皇陛下七月下旬父島ニ行幸アラセラル際要塞戰備關

スル奏上ニ関シ電報ヲ以テ指示ヲ與ヘラレ度及照會候也

追而戰備以外事項ニ関シテハ第一師團長ヨリ指示ヲ

與ヘラル、答ニ就テ申添矣

要點ヲ成ルル簡易ニ奏上

スルコトニ關シ師團ノ通告アリ

師團ノ要旨アリ命ス

(七月十一日 陸軍省 軍事課)

陸軍省

陸普

次官より父島及奄美大島要塞司令官へ通牒

天皇陛下貴要塞防禦營造物・行幸被遊若ハ

侍臣御差遣の場合ニ於ケル軍人軍属以外、モ

ノ出入ニ関シテハ防禦營造物出入規則第一條

ノ規定ニ拘ラス貴官ニ於テ侍従武官ト協議

工可然取計相成様致度依命通牒ス

陸普

次官より侍従武官長へ通牒

首顯ノ件ニ関シ父島及奄美大島要塞司令官ニ

對シ別紙、通指示致置キタルニ付通牒ス

二九九三



別紙

宮内官等防禦營造物出入ニ關スル件通牒

昭和二年七月 日

陸軍次官

父島及奄美大島要塞司令官宛

天皇陛下貴要塞防禦營造物ニ行幸被遊若ハ侍臣

御差遣ノ場合ニ於テル軍人軍屬以外ノモノノ出入ニ関シテ

ハ防禦營造物出入規則第一條ノ規定ニ拘ラス貴官

ニ於テ侍從武官ト協議ノ上可然取計相成様致度

依命通牒ス

陸軍

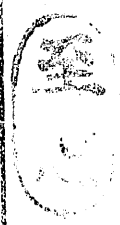
<p>副官より海軍省副官宛通修葉 (附書)</p> <p>天皇陛下小笠原島行幸ニ際シ而警衛ノ為</p> <p>同島ニ派遣スル憲兵將校以下<small>左記</small>大名申還幸後</p> <p>同島撤退ノ際父島及母島より横須賀上出貴</p> <p>有差遣ノ軍艦是日ニ便乗方申付形致至</p> <p>區于右支隊無ニキ塔合ニ有橋 憲兵司官部</p> <p>当軍支子申而協議ニ致サス(キ)申候了</p>			
<p>左記</p> <p>三二三</p> <p>一五</p>			
派遣地名	所屬	官等	氏名
父島	東軍憲兵隊	憲兵佐	茅野 正文
同	同	憲兵曹長	伊波典四郎

			同	同	母	同	同	同	同
					島				
			同	同	同	同	同	同	同
			富貴打男	富貴曹長	憲兵特務長	同	同	憲兵長	同
			池浦 歳男	小川 一郎	浅見 文雄	大霜 兼右郎	菅原 重道	熊手 義男	井上 清助

陸
軍



0830



三八一
陸軍大臣白川義則殿

小笠原島派遣憲兵軍艦便乗方件上申

昭和元年七月拾貳日

憲兵司令官峯 幸松

陸軍大臣白川義則殿

來ル七八月ノ交 天皇陛下小笠原島行幸御

警衛ノ為メ別紙人員派遣可致ニ付往復共

軍艦(往ハ先發艦)ニ便乗方御詮議相成度

及上申

貴人課ニテ處理相成度

兵令課中

昭和元年七月拾貳日

212
2.71
7.16
361
軍事課



		小笠原島行幸警衛派遣兵人名	
派遣地名(所)		官等氏名	
父島	同	東京憲兵隊	憲兵少佐 茅野正大
	同		憲兵曹長 伊藤與四郎
	同		同 井上清助
	同		憲兵上等兵 熊本義男
	同		同 菅原重道
	同		同 大霜菊太郎
母島	同		憲兵曹長 浅見文雄
	同		憲兵曹長 小川一郎
	同		憲兵上等兵 池浦歳男

陸軍

0632

陸軍大臣白川義則殿
陸軍部 五〇一號

小笠原及奄美大島行幸報告衛之關スル件

昭和貳年八月廿參日

憲兵司令官 奉 幸

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 2. 8. 24 午前 8 時 受取 陸軍部

陸軍部 2. 8. 24 陸軍部

陸軍部 2. 8. 30 陸軍部

陸軍部 2. 8. 24 受取 陸軍部

陸軍大臣白川義則殿

天皇陛下聯合艦隊、戰鬥射撃及爆撃實驗御臨、御途中小笠原島、佐伯灣及奄美大島、行幸マセシテ、際憲兵、七月二十三日憲警第四、五班報告、人員マテ報告衛、服シ異状マテ任務終了ニシテ、狀況左記報告ス

友 記

一 御日程

七月十四日陸密第三二〇號ノ通り

ニ奉送迎ノ狀況

一 小笠原島

ハ七月六日小笠原支廳ヨリ行幸御内定ノ發表コレヤ島民
ハ豫テ道路ノ修築溝渠ノ浚渫假棧橋ノ架設海
岸防風林及行幸山林ノ清掃其他清潔法ヲ實施
等ニ努メ山向盛大ナル奉迎計画ヲナレタレ宮内省ヨリ申
越ニ依リ御遠慮申上ケタリ

又島在郷軍人分會員五十名青年團員六十名ハ七月

二十七日ヨリ同二十九日ニ亘リ波止場附近並ニ御道筋ノ掃除

ニ擔當シ七月二十九日ヨリ御臨幸場所ノ警備ヲ行ハ

又島在郷軍人分會員七十名ハ御道筋ノ掃除及南

京濱假棧橋架設ヲ擔任シ行幸前夜ハ消防員ト共ニ
火災盜難ヲ警防ス

又御上陸當日ハ全島民業ヲ休ニ國旗ヲ掲ケ御入港ニ時
間前ヨリ指定ノ場所ニ參集セリ其數父島ハ波止場ニ約
三百名御道ガ助ニ約八百名、母島ハ波止場ニ約五百名御道
ガ助ニ約三百名コレヲ何レモ靜肅誠意奉迎シ中ニ恐懼ノ
餘リ龍顏ヲ拝シ得サルモノ多敷アリキ

又父島官民約七百ハ七月三十日夜、母島官民約三百五十名
ハ七月三十日夜漁船ニ各乗奉祝提灯ヲ携帶御召艦
ノ外圍ヲ一週萬歳シ三唱シ同時海岸ニ參集セル老幼婦女
子等モ提灯ヲ振リ萬歳シ三唱セリ

六月三十日父島二見港御出港之際官公吏愛國婦人會
 青年團員、小學校生徒等約一千名、波止場附近に參集
 奉送ニ在郷軍人分會員ハ「カヌー」艇三十五隻ニ分乗國
 旗ヲ掲テ發動機艇ニ登カレテ御召艦ノ内側ニ陣ヲ作り
 御拔錨ト同時ニ萬歳ヲ三唱セリ

又八月一日母島沖港御出港ノ際午前六時三十分頃ヨリ在
 郷軍人分會員約五十名ヲ先頭ニ小學校生徒約百五
 十名青年團員約五十名其他官民約百五十名各旗ヲ
 携ヘ漁船九隻ニ分乗御召艦附近ヲ回航午前八時御出
 航ト共ニ萬歳ヲ三唱奉送セリ

又父島在郷軍人分會ハ歩兵銃三十挺ヲ母島在郷軍人分

會、同二十挺之要塞司令部より借受ケテ武装シテ各會長指
揮ノ下ニ波止場ニ於テ奉迎シテ後憲兵警備隊官補助トシテ警備
ニ服セリ

○奄美大島

1、名瀬所ニテハ假設橋附近ニ古仁屋ニテ六軍団棧橋附近蘇
鐵葉ヲ以テ縁門ヲ作り名高地ニテ奉迎ノ二字ヲ「イルミネ」ニ
ヨシシテ現ニ煙火數百發ヲ打揚ケ奉迎セリ

2、名瀬所古仁屋共ニ御上陸ノ際ハ官民棧橋御道ヲ助ニ
參集奉迎セルカ其數名瀬所ニテハ約五方、古仁屋ニテハ約
一万五千ナリ

又八月六日御召艦古仁屋御入港ノ當夜東方村、西村、實
久村附近海岸九十三箇所ニ篝火ヲ焚キ午後八時ヨリ九時迄
古仁屋村民陸上及海上ニ提灯行列ヲ行セリ

八月七日午後一時古仁屋附近五ヶ村に在郷軍入青年團員以下
板附舟競走之會實施セリ

名瀬町在郷軍入分會員及青年團員二百九十五名ハ七月
二十二ヨリ二十六日迄御道修助ノ改修作業ニ従ヒ九月尚在郷
軍入二百名ハ八月三四日ニ巨リ「ハブ狩」ニ従ヒ優良分會員
二十五名ハ憲兵警務官ニ補助トシテ警衛ニ服セリ

古仁屋東方村に在郷軍入分會及青年團員ハ八月一日二日ニ
巨リ「ハブ狩」ニ従事シ尚東方實久、西方鎮西、幸橋、五分會
員中ヨリ選拔セシ會員九十名ハ憲兵警務官ニ補助トシテ警衛
ニ服セリ

三、警衛ノ狀況

一、小笠原島

東京憲兵隊將校一准士官一下士以下七名ハ七月十六日午
後三時横濱出帆、汽船ニ乗舩七月十九日文島ニ上陸又

島憲兵分駐所員下士以下三ヶ合と分駐所、宿泊地方
 官憲宮内省ト協議打合せヲシ七月二十日准士官以下四
 名ヲ母島へ派遣シ共ニ過激思想抱持者精神病者
 等ノ内偵調査要塞地帯取締等ニ関シ注意警言衛
 ニ遺漏ナカラシムル如ク努メタリ而シテ父島警言衛者ハ下士以下
 二名ヲ残置シ其他ノ將校以下六名七月三十日警言衛終了後
 軍艦春日ニ便乗シ母島ニ到リ母島警言衛者准士官以下
 四名ヲ合シ警言衛ニ服シタルカ警言衛異状ヲ了シ東京隊
 派遣將校以下九名ハ軍艦春日ニ便乗シ八月四日横須
 賀ニ到着歸隊セリ

二佐伯灣

八月三日佐伯灣御入港之際ニ熊本憲兵隊將校一、下士以下四名、佐伯町ニ赴キ三名、葛港ニ於テ陸上拜觀者、取締ニ從ヒ三名、築城支部、汽船ニ便乗海上ニ於テ御召艦附近ニ拜觀者、取締ニ從ヒ八月五日御發港ト共ニ敬言衛隊置テ解キ歸隊セリ

三 奄美大島

熊本憲兵隊准士官一、下士以下三名(内一古仁屋憲兵分駐所員)ハ名瀬町ニ將校二(内一熊本憲兵隊長)下士以下九(内一古仁屋分駐所員)ハ古仁屋ニ各八月二日到著ニ向地方官憲ト連絡現地偵察、要注意者ノ言動内偵等ニ後事レタリ而シテ名瀬町敬言衛者准士官以下四名ハ

警言衛終了後古仁屋に到り八月七日より古仁屋警言衛憲兵
ト合シ服務シタルカ故言衛中異状ナカリキ

古仁屋ニハ思想上の注意スルキ人物少ナカラス警言衛上特ニ注
意ヲ要シタルカ同地故言祭ニテハ在任思想要注意人申警
戒ヲ要スル者四名ヲ八月六日午後三時検束シ翌七日放遣セ
ル外一名ハ不検束シ儘故言祭ニ留メ置キタリ

四、故言祭事故

本籍 静岡市東鷹匠町無番地

現住所 東京府下世田区各町下町一〇三番地

光村美術出版部写真部員

北角

三三
三三〇年

右ハ父島行幸、模標撮影、又軍艦春日ノ便乗父島ニ
 上陸シ七月三十日午前十時三十分頃他人ニ附與セシレモ父島
 要塞地帯内作業許可書ヲ借用携行シ父島ニ於テ要
 塞司令官ノ許可指定地外ヲ無断撮影シタルヲ私服
 敵官ニ取押ヘシレ憲兵ノ事件移牒アリ憲兵ハ要塞
 司令官ト打合、上要塞地帯法違反トシテ捜査処分ヲ
 ナセリ

(了)

陸二九〇

憲法第五〇條

聖上陛下大倉美大島行幸時ニ於ケル

島民ノ感想ニ関スル件報告

八月十六日 陸軍大臣白川義則殿

昭和二年八月二十三日 憲兵司令官 山本 幸

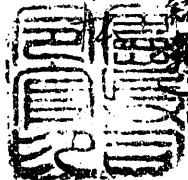
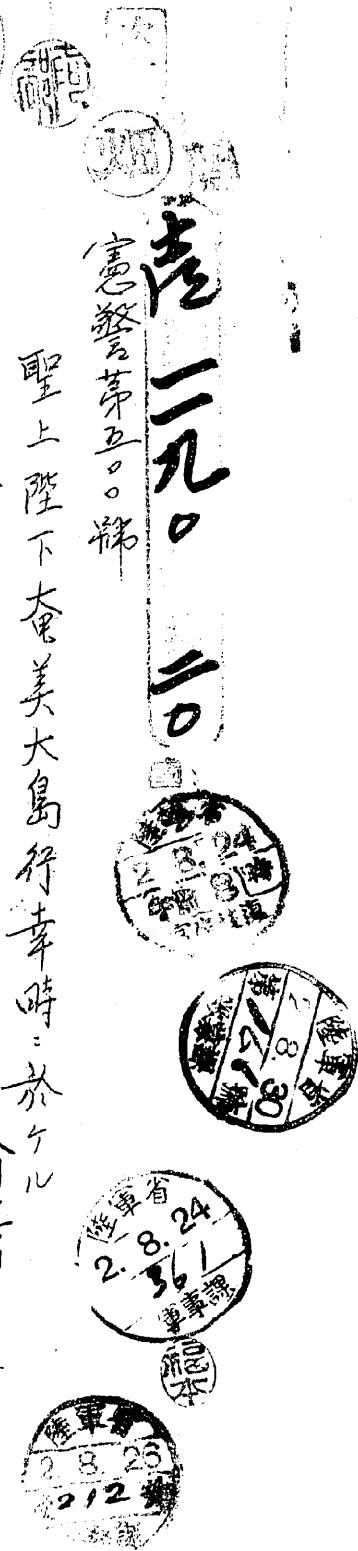
陸軍大臣白川義則殿

聖上陛下八月六日鹿児島縣大島郡名瀬所ニ行幸御
上陸翌七日古仁屋行幸被遊タルニ對シ島民一般ノ感
激狀況左記ノ通報告ス

左記

一一般ノ狀況

聖上陛下ノ行幸ヲ拝美スルヤ島民ハ何レモ



陛下ノ大御心ノ奉ケテサニ感泣シ行幸前各離島
ヨリ拝観ノ爲メ来集シ千載一遇ノ光榮ニ浴セン
コトヲ期シ奉迎ニ関スル赤誠ノ状至ラサルナク行幸
ニ際シテハ老若男女ヲ問ハス等シク衷心ヨリ奉迎ノ
誠ヲ致シタリ

ニ感激状況

侍醫ノ診察施薬ヲ受ケタル者六十二名ハ勿論一般
健康者ニ至ル迄 聖恩ノ難有ニ感泣シ此事ヲ以
テスルニ 陛下ノ如何ニ島民ニ至ル迄御愛撫シ
給フカヲ拝察セラレ誠ニ恐懼ニ堪エスト衷心ヨリ
感激シ居レリ

又御徒歩ニテ御上陸被遊一々島民ノ奉迎ニ御會釋
 ヲ賜リタルニ對シ奉リ一道路掃除人夫迄御通過
 路ノ掃除ニ當リタル老笨ヲ喜ヒ炎暑ノ折柄
 玉体ニ御障リナカラン事ヲ只管祈願シ奉レリ
 3. 今回ノ老笨ト旧藩時代ニ於ケル状態トヲ比較シ
 如何ニ 陛下ノ御政務ニ御熱心ニ亘ラセラレ僻
 遠ノ地迄ニ御視察被遊以テ國民ノ爲メニ大御心
 ヲ寄セララルルカヲ拝察シ 聖恩ノ無窮ナルニ感
 泣シアリ殊ニ疲弊セル島民ハ此ノ御視察ニ因
 リ大島ニ將來大ニ發展スルヲ得ヘント喜ビ居
 レリ

4. 一般ニ奉迎ノ諸設備ノ至ラサルヲ懸念シ献上品、天
賜品ノ少キヲ恐懼シ天候ノ平穩御還幸御恙
ナカラシコトヲ祈願シ奉リタリ。

報告通牒又奉送先

陸軍大臣、海軍大臣、警備司令官、参謀總長、教育總監
宮内省白根事務官、侍從武官長、陸海軍兩者各局長

(終)

0646

軍部
後
比
海

陸軍省

陸軍省
陸軍省
陸軍省

其三

納見

2. 14. 8. 午前

青山

陸軍省
2. 7. 14. 36. 1. 軍事課

六師、庶幾第五一號

警備艦便乗ノ件依頼

昭和二年七月十一日

第六師團參謀長大泉製之助

陸軍省副官 中村 孝太郎 殿

天皇陛下奄美大島へ行幸ノ節師團長扨從シタシ依テ師團長及參

謀一名警備艦ニ便乗方取計ヒ相成度依頼ス

追テ便乗艦名、便乗スヘキ場所及日時等決定次第至急通牒セ

ラレ度シ

陸軍

(納本松)

0647

大島に
行幸ありせり候趣
拜承仕候如
く
御報告
候

代官
渡

御報告

拜啓仕候暑氣日々相募申候折柄愈々
御清移奉賀の至りに存上候 扱新聞紙
の報道する如によれば来る八月に於て
聖上陛下海軍演習中第六師管下奄美
大島に 行幸ありせり候趣拜承仕候如
若し事實に有之候へは準備の關係も有
之候につき宮内省に於て確定次第御通
報相煩度願上候
右取急き得貴意候 謹言

省
1
2 午前
3
官内省

省
7
9
軍務課

七月六日

第六師團副官 荒川真郷
陸軍省副官 中村孝太郎殿

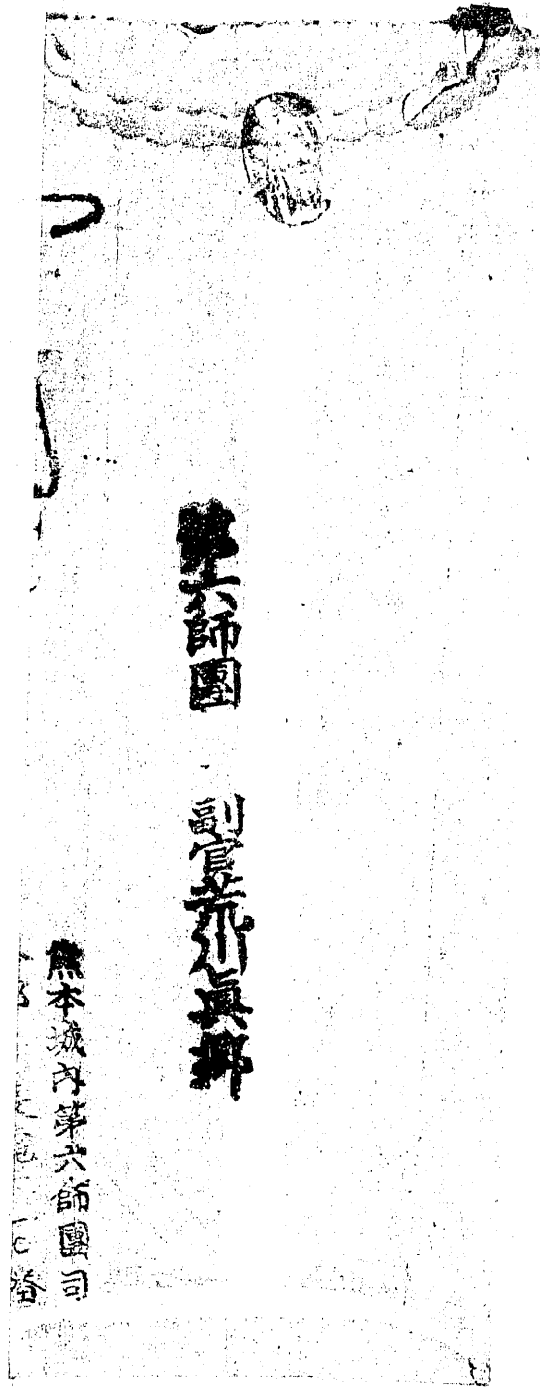
(印) 陸軍省

0649

陸軍省副官

中村孝太郎殿

26492





陸軍省 第三〇四號

七月三日

納見



供奉將校氏名ノ件報告

昭和二年七月九日

近衛師團長津野師團輔

陸軍大臣白川義則殿

今般小笠原島及奄美大島へ差遣ノ供奉近衛將校氏名左記ノ通り報告ス

進而海軍省及宮内省トハ連絡ヲ完了ス

左記

小笠原島	陸軍歩兵中佐	奥	保夫
同	工兵大尉	織田	義重
同	騎兵大尉	片野	印之助

大島

陸軍砲兵少佐

澁田吉郎

同 歩兵大尉

目賀田周之助

同

遠藤徳次

2990



臺二九〇

官房第三五五號下五

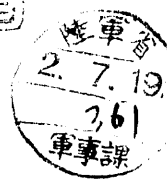
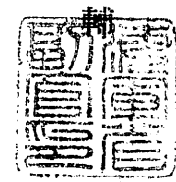
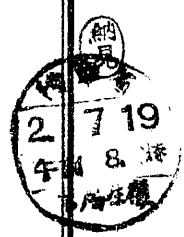
昭和二年七月十八日

海軍省副官 小 楨 和

陸軍省副官中村孝太郎殿

供奉近衛將校警備艦便乗ノ件

本件ニ關シ七月十四日附陸普第三一一一號御照會ノ次第有之候處既ニ近衛師團ヨリ直接當省宛詳細照會有之來意ノ通處理濟ニ付御了知相成度
右通知ス



海 軍

終

0653

陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部

陸軍第九十七號第一

陸軍省

第二

2號

7. 15. 253
軍事課

電報譯 七月十五日午前九時四十分發

陸軍省副官宛 發信者 第六師團參謀長

陸二二九 十四日受領ス

陸二二九 天皇陛下御前 行幸 節 御出立

陸軍省 陸軍部

陸軍

7990

決行指定
決裁指定
十年
保存期限

大正 二年 七月 十三日	大正 二年 七月 三十日	大正 二年 七月 十三日	軍令 第二五三號
領受	領受	提出	事務局長

連帶
局長

大臣
次官
政務次官
主務局長

高級副官
主務課長

主務副官
主務課員
書記官
簿記者

件名
天白陸下奄美大島、行軍、節師團長警備艦候乗件
肆第九六七號
第六師團

政務次官
參與官
決裁前連帶課名
決裁後課名
兵務課
防備課

第一師團
倉徒スルシ件
考慮シ置
七月九日
主計課長

課名(後) 兵務課 附備課

第六師團

長警備艦隊兼件

書記官

審案 書記者

主務副官 官房御用掛	主務課員
---------------	------



211

上ノ下

第一師團長ニ小笠原ハ

扈從スルニ件經費關係件

考慮シ置カレ度

七月九日 軍事課

主計課布中

副官ヨリ第六師團參謀長、電報案

天皇陛下奄美大島、行幸ノ節貴師團長(隨行者一考)海軍警備艦ニ便乗ノ件海軍省了解濟。手續トシテハ貴師團ヨリ直接佐世保鎮守府ニ請求シ且細部ニツキ協議セウレタシ

三三九

七十四日

2990



第一九六六七

電報譯

×

月

九

日

午

前

時

一

時

二

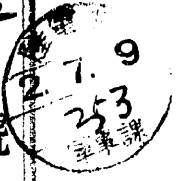
分

著



第五

號



陸軍省副官宛 發信者 某 呼圖 矢多 漢長

答

天皇陛下今般奄美大島へ行幸ニ付 師團長扈從之夕ニ 警備艦便乗ノ件 依頼ス

陸軍

主計課 兵務課
(後決裁)
 宛 課 名

宮内省 訓

皇親御覽、為行幸、件

書記官

主務副官

官房御用掛

主務課員



審案 筆記者



6590

一、東京ニ於テハ陸軍禮式ニ依ル儀式ヲ行フニ及ハサル旨御沙汰アル筈(侍從武官ヨリ回報) 奉送迎
 二、就テハ東京驛御見送ハ勅任官以上並各部隊ヨリ奏任總代右一名ト致度
 尚將來ニ此方針ニ依リ度
 七月一日 軍務課

次官より東京警備司令官第六師團長及び

憲兵司令官へ通牒案

(陸委)

天皇陛下豊後水道沖ニ於ケル聯合艦隊ノ戦闘
射撃及爆撃會戰御覽、為來二十八日東京
御發別紙御發者別、及市内御道筋若東京
市内天皇陛下略式自動車會葬ニ依り行車
可被為左旨被仰由
連三行車、御日程別紙ノ通ニ付申添フ

三二〇

(注意)第六師團長ハ本文中ノ「ト」ハシ、東京警備
司令官ハ「連書ヲ別」

大臣ヨリ近衛師團長ハ連集(以下後考)

天皇陛下豊後水道沖ニ於ケル聯合艦隊ノ戦闘
射撃及爆撃會戰願御覽、為來二十八日東京
御發別紙御後著劇及東京中ハ天皇陛下略
式自動車會簿ニ依リ行幸可被為立旨被仰
出此旨心得ニシ

是ニ小笠原島及奄美大島ノ御上陸ノ際ニ於ケル直
接ノ警衛ニ任セラルル為近衛將校各三名ヲ同地
ニ差遣スルモノトス 供奉

陸軍省三二一〇

陸

軍

副官より近衛師團参謀長、通牒案

七月十四日附達善第三一〇。雖建三休り小笠
原島ノ差遣、近衛將校ハ横須賀ヨリ、奄美大
島ノ差遣、近衛將校ハ佐世保ヨリ海軍ノ警備
艦ニ便乗スルモノニシテ其詳細ニ聞シテハ貴師
團ヨリ當該鎮守府ノ協議セラレ度ニ
定テ右將校ノ職務ニ付ラハ行幸主務官ノ参接ハ
連絡セラレ度申添フ

供奉近衛將校警備艦ノ便乗ノ件
次官ヨリ海軍次官ノ通牒案

天皇陛下今回豊後水産沖ニ於ケル聯合艦隊
 ノ戰鬪射撃及爆撃ノ實驗御覽ノ為行幸被
 爲左部小笠原島及奄美大島ノ御上陸ノ際
 ニ於ケル直捷ノ警衛ニ任セシムル為近衛將校
 各三名ヲ同島ノ差遣可致ニ付横須賀及佐世
 保ヨリ右將校ヲ警備艦ニ便乗方取計ハレ
 度
 追テ便乗ノ詳細ニ關シテハ近衛師團ト雷誘鎮
 舟府間ニ於テ協議ノ事ニ致度申添フ

七月十五日

供奉近衛將校派遣ノ件

送

題

大臣ヨリ宮内大臣ノ通牒案

天皇陛下今回豊後水道沖ニ於ケル聯合艦隊ノ
戦闘射撃及爆撃實驗御覽ノ為行幸被為
五部小笠原島及奄美大島ノ御上陸ノ際ニ於
ケル直捷ノ警衛ニ任セシムル為供奉近衛将校
各三名ヲ海軍ノ警備艦ニ便乗セシメ同島ノ
派遣セシムルニ付承知セラレ度

是ラ供奉近衛将校ノ派務ノ細部ニ付近衛部
團ヨリ直捷行幸主務官ノ打合セノ事ニ取計ニ盡
キレニ付申添フ

五二二一

陸海軍大臣



軍部

次官

大臣

陸軍省 領事課 二一九〇
宮内大臣官房 文書課 官發第四四一號

昭和二年七月十二日

宮内大臣 一木喜徳郎

陸軍大臣 白川義則 殿

通牒

天皇陛下豊後水道沖ニ於ケル聯合艦隊ノ戦闘射撃及爆撃ヲ實驗御覽ノ為來二十八日東京御發行
幸可被為在旨被仰出候

一御發着割別紙之通

一東京市内鹵簿 天皇略式自動車鹵簿

一東京市内御道筋別紙之通

一關係ノ向ハ御傳達相成度



御發着割

七月二十八日

午前八時三十分

赤坂離宮御出門

同日八時五十分

東京驛御發車

同日十時三十分

横須賀驛御着車

軍艦山城御乗艦

同日十一時三十分

横須賀軍港御出港

御航海

七月二十九日

御航海

七月三十日

午前八時三十分

小笠原三見港御入港

父島御上陸

小笠原三見港御碇泊

七月三十一日

午前八時

小笠原三見港御出港

天候ノ關係ニテ七月三十一日
夕刻母島ノ御碇泊
コトアルニシ

午後十時三十分

母島沖港御入港

母島御上陸

母島沖港御碇泊

八月一日

午前八時

母島沖港御出港

天候ノ關係ニテ七月三十一日
夕刻母島沖港御出港
コトアルニシ

御航海

八月二日

御航海

八月三日

午前九時

佐伯灣御入港

八月四日

朝

佐伯湾御碇泊

佐伯湾御出港

夜

射撃手御覧

佐伯湾御入港

佐伯湾御碇泊

八月五日

朝

佐伯湾御出港

豊後水道沖ニ於テ聯合艦隊ノ爆撃実験

御覧

豊後水道沖御發

夕

御航海

八月六日

午後零時三十分

鹿児島縣奄美大島名瀬沖御着

名瀬町御上陸

同日 四時

鹿児島縣奄美大島名瀬沖御發

同日 七時

鹿児島縣奄美大島古仁屋港御入港

古仁屋港御碇泊

風波荒キトキハ名瀬沖御寄航並名瀬町御上陸

川取止メコトアルニ

八月七日

古仁屋御上陸

古仁屋港御碇泊

八月八日

午後四時

鹿児島縣奄美大島古仁屋港御出港

八月九日 御航海

御航海

八月十日

午後二時

横須賀軍港御入港
御上陸

同日 三時十五分

横須賀驛御發車

同日 四時四十分

東京驛御着車

還幸

七月三十日小笠原附近御着、際 風波荒キトキハ同島
御立寄御取止、上鹿見島嶼有明湾ニ御寄港ノコト
ニ御變更八月三日午前九時佐伯湾御入港アラセラル

赤坂離宮東京驛間御道筋

正門ヨリ右へ右へ紀伊國坂ヲ下リ左へ赤坂見附跡
ヲ上リ右へ永田町通霞関ヲ下リ日比谷公園霞門
前左へ祝田町新道ヲ入リ右へ御幸道路ヲ経テ
東京驛へ

0672



皇紀二九〇〇一



文書部一課第四四二

昭和二年七月十二日

宮内大臣 一木喜徳郎



陸軍大臣 白川義則 殿

通牒

天皇陛下聯合艦隊ノ戦闘射撃及爆撃實驗御覽ノ爲行幸御日程別記ノ
通御治定被爲在候

宮内省

極本

御日程

七月二十八日(木曜)

午前八時三十五分	赤坂船着場	内務省(三十分)
八時五十五分	東京駅御發車	宮廷列車(三十分)
十時二十五分	横濱繁華街着車	御發車(五分)
十時三十分	邊見埠頭御乘艇	横濱電艇(十分)
十時四十分	軍艦山城御乘艇	(五分)
十一時三十分	横濱繁華街御出港	

海航

七月二十九日(金曜)

海航

0693

七月二十四日(土曜)

午前八時三十分

小笠原二見港御入港

(四十五分)

九時十五分

艦載水雷艇二隻乗艦

(十五分)

場全三依り途中船又ハモニターポート
ニ到着際ノニトアヘシ

九時三十分

大村仮機場ヨリ御上陸

御徒歩(五分)

大村尋常高等小學校

午前九時三十分
九時五十分
御徒歩(五分)

御徒歩御覧

萬歳三唱

父島要塞司令部

午前九時
一〇時

御徒歩(三十分)
御徒歩(五分)

拜謁

参上

東京府小笠原支廳

午前一〇時
一〇時五十分

(四十分)
御徒歩(五分)

拜 舘
奏 上

物 産 拜 舘

農 事 試 験 場 拜 舘 通 達 午 前 二 〇 〇 拜 舘 通 達

魚 養 殖 場

午 前 二 一 〇 拜 舘
二 一 五 拜 舘

(五 分)

拜 舘 未 (五 分)

拜 舘

午 前 十 一 時 二 十 分

大 村 役 務 局 拜 舘 乘 艇 艇 載 小 樽 艇 (十 五 分)

場 舎 三 依 り 鯨 又 ハ モ ー タ ー ボ ー ト ニ テ 拜 舘
途 中 拜 舘 乘 ノ 二 ト ア ル ヘシ

午 前 十 一 時 三 十 五 分 拜 舘 歸 艇

拜 舘 拜 舘

拜 舘 拜 舘

午後一時

船載水雷艇二泊乗艇 (十五分)

乗艇 連中船又ハモーターボートニ泊

午後一時十五分

捕鯨事業場仮校場ヨリ浦上陸

浦上陸 (三十分)

奥村 (彰化人) 浦視察

午後一時十五分

捕鯨事業場仮校場ヨリ浦乗艇

二見岩附近浦巡視 (午後二時十五分) モーターボート又ハ船 (三十分)

午後三時十五分

廠浦仮校場ヨリ浦上陸 浦徒歩 (四十分)

連中 (山笠系南) 坂記念碑浦視

連樹谷 (午後二時) 浦上陸 (四十分) 浦徒歩 (四十分)

浦休憩

午後五時二十分

二見浦仮校場ヨリ浦乗艇

モーターボート又ハ船 (三十分) 浦上陸 (三十分)

七月三十一日(日曜)

午前八時

小笠原 二見港 沖出港

日 十時三十分

田島 沖港 沖入港

(三十分)

日 十一時

船載小雷艇 沖乗艇

(十五分)

自中艇 沖移乗

日 十一時十五分

沖村 飯棧橋より 沖上陸

沖往來(五分)

沖村尋常高等小学校

午前十、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

沖往來(十分)

同

洲崎方面 沖往來

六時三十分頃

沖帰艇

二見港 沖往來

午後八時 微行トス

或須田浦
(並物産)

萬歳三唱

ロース石場浦通過 午後二時四十分浦通過
浦徳志(十分)

午後十一時五十分 井林仍橋(浦)乗船
船(十五分)

途中船載水雷艇二浦物集

午後十二時五十分 船帰船

橋見橋

浦物集

午後一時三十分 船載水雷艇二浦乗船
(十五分)

南原渡沖視察 午後二時四十分浦物集
(三十分)

午後二時三十分 浦帰船
(十五分)

母島沖港浦物集

○午後ハ御殿行トス

八月一日（月曜）

午前八時

由島沖港浄出港

御航海

夫候、南條ニテ七月二十一日夕刻
由島沖港、浄出港ノ下アルヘシ

八月二日（火曜）

御航海

八月三日（水曜）

午前八時

佐伯湾浦入港

浦碇泊

午後一時

浦碇泊

八月四日 (木曜)

朝

佐伯湾浦出港

豊後水道沖に於て聯合艦隊

畫夜に數回射撃演習

夜

佐伯湾浦入港

佐伯湾浦碇泊

八月五日 (金曜)

朝

豊後水道沖に於て聯合艦隊
爆撃実験沛噴

佐伯湾に出港

豊後水道沖に於て

赤坂海

八月十日(土曜)

午後二時三十分

鹿嶋島経奄美大島系瀬沖に於て

午後一時十五分

艦載水雷艇二隻葉艇 (二十五分)

途中解又ハポートニ即移乗

午後一時十分

名瀬等仮機務所沖上陸 (午後)

鹿嶋島経大島支那

午後一五〇分 沖葉 (三十五分)

拜 賜

榮 上

物三任清覽

名瀬尋常高等小學校

午後二、三時

（五分）
（十分）

成瀬高小學校

萬歳三唱

大島支廳前公園

午後二、三時

（五分）
（十分）

清音望

午後二時五十分

名瀬分級校場ヨリ

乗云
船又ノボリ
（十分）

途中船載水雷艇ニ移乗

日 三時五分

清輝船

日 四時

鹿見船宿夜更夫名瀬沖ヨリ

日 七時

古仁屋港 沖ノ港

古仁屋港沖碇泊

風浪荒キトキハ名瀬沖沖邊の航路名瀬沖上陸ヲ取止メトアルヘシ

八月七日(日曜)

午前八時五分

船載水雷艇二隻乗艇 (十分)

午後九時

西島塞司令部乗艇 (十分) 上陸

奄美大島西島塞司令部 午前九時十分 乗艇 (三十分) 西島塞 (十分)

拝謁

奏上

右仁彦の等七名等少将校に九位連 乗艇 (十五分)

成績品等御覽

萬歳三唱

清原海軍 午前10時10分 乗艇 (十分)

清原海軍 (三十分)

清原海軍

午後十時十分

西島塞司令部乗艇 (十分) 乗艇 船載水雷艇 (十分)

日

十時五十分

清輝船

先仁彦港 清輝泊

○午後清輝行ニテ清土陸ノ下アハヘシ

八月八日(月曜)

清輝行ニテ清土陸ノミトアハヘシ

午後四時 先仁彦港 清輝出港

清輝船

八月九日(火曜)

清輝海

八月十日(水曜)

午後二時

午後三時

午後三時十分

午後三時十五分

午後四時十分

午後五時

横須賀へ津港泊入港

船載水雷艇二隻乗艇

退見埠頭より浦上陸

横須賀へ津港泊入

東京へ津港泊入

高坂新子へ津港泊入

(一時半)

(十分)

(五分)

完延列車

(一時四十五分)

白船(三十分)

七月三日の心算所也 津幕へ降風被其キトキハ
島津立幸の津幕止々上流見島敷有此津二津
島の港ノ事トニ津幕是八月三日午九時伏伯湾
即入港アウセウル

七月二十日 御發着割

午前八時三十五分

赤坂離宮御出門

同 八時五十五分

東京驛御發車

同 十時三十五分

横須賀驛御着車

同 十一時三十分

横須賀驛港御出港

七月二十九日

御航海

七月三十日

午前八時三十分

小笠原二見港御入港

父島御上陸

小笠原二見港御碇泊

七月三十一日

午前八時

小笠原二見港御出港
天候關係より七月三十一日刻
父島へ御回航ノコトアルハシ

午前十時三十分

母島御上陸

母島沖港御碇泊

母島沖港御入港

八月一日

午前八時

御航海

母島沖港御出港

天候關係ニテ七月十五日夕刻
母島沖港御出港ノコトアル

八月二日

御航海

八月三日

午前九時

佐伯灣御碇泊

佐伯灣御入港

八月四日

朝

豊後水道沖ニ於テ聯合艦隊ノ晝夜間戦闘射撃

佐伯灣御出港

撃御覽

夜

佐伯灣御碇泊

佐伯灣御入港

八月五日

朝

豊後水道沖ニ於テ聯合艦隊ノ煉礮ヲ演習シ御覽

佐伯灣御出港

豊後水道沖御發

御航海

八月六日

午後零時三十分

名瀬町御上陸

鹿児島縣奄美大島名瀬沖御着

同

四時

鹿児島縣奄美大島名瀬沖御發

同

七時

鹿児島縣奄美大島古仁屋港御入港

古仁屋港御碇泊

風波荒キトキハ名瀬沖御寄航ス名瀬町御上陸御取上メ

トアレハシ

八月七日

古仁屋御上陸

古仁屋港御碇泊

八月八日

午後四時

御航海

鹿兒島縣奄美大島古仁屋港御出港

八月九日

御航海

八月十日

午後二時

横須賀軍港御入港
御上陸

同 三時十五分

同 四時四十分

横須賀驛御發車
東京驛御着車

還幸

七月三十日小笠原附近御着ノ際風波荒キトキ八回島御
立寄御取止メノ上鹿兒島縣有明灣ニ御寄港ノコトニ御
變更八月三日午前九時佐伯灣御入港アラセラル

赤坂離宮東京驛間御道筋

正門ヨリ右へ右へ純伊國坂ヲ下リ左へ赤坂見
 附跡ヲ上リ右へ永田町通霞關ヲ下リ日比谷公
 園霞門前左へ祝田町新道ヲ入リ右へ御幸道
 路ヲ経テ東京驛へ

輕載

御日程

七月二十八日(木曜)

午前八時三十分
 同 八時五十分
 同 十時二十五分
 同 十時三十分
 同 十時四十分
 同 十時三十分

赤坂離宮御出門 自動車(二十分)
 東京驛御發車 宮廷列車(五十分)
 横須賀驛御着車 御徒歩(五分)
 逸見埠頭ヨリ御乗艇 艦載水雷艇(十分)
 軍艦山城ニ御乗艦 (五十分)
 横須賀軍港御出港

御航海

七月二十九日(金曜)

御航海

七月三十日(土曜)

午前八時三十分
 同 九時十五分

小笠原ニ見港御入港(甲五分)
 艦載水雷艇ニ御乗艇(十分)
 場合依リ途中解又ハモ一トホ一トニ御

同

九時三十分

大村假杖橋より御上陸 御徒歩(五分)
移乗ノコトアルハシ

大村尋常高等小学校

午前九時五十分着(十分)
九時四十五分發 御徒歩(五分)

成績品御覽

萬歳三唱

又島要塞司令部

午前九時五十分着(二十分)
九時四十分發 御徒歩(五分)

拜謁

茶上

東京府小笠原支廳

午前九時五十分着(四十分)
九時四十分發 御徒歩(五分)

拜謁

茶上

物産御覽

農事試験場御通過

午前十一時。御通過御徒歩(十分)

亀巻植場

午前十一時。御着(五分)
十一時五十分發 御徒歩(五分)

御覽

午前十一時二十分

大村假候橋より御乗船 艦載水雷艇(十五分)

場合ニ依リ解又ハモーターボートニテ御登陸
中御移乗ノコトアルヘシ

同 十一時三十分

御召換
御重餐

御歸船

午後一時

艦載水雷艇ニ御乗船(十五分)

途中解又ハモーターボートニ御移乗

同 一時十五分

奥村(歸北人)

捕鯨事業場假候橋より御上陸 御徒歩(三十分)

同 一時四十五分

捕鯨事業場假候橋より御乗船

モーターボート又ハ解(五分)

二見岩附近御覽

午後一、五ヨリ
月 二、五ヨリ (一時間)

モーターボート又ハ解(二十五分)

同 三時十五分

前浦假候橋より御上陸 御徒歩(四十五分)

途中小笠原洞括記念碑御覽

連樹谷 午後四、御着(四十分) 御徒歩(四十分)

御休憩

同 五時二十分

府浦飯橋より御乗船

エーサーホト又將邊中継載水雷艇ニ御移乗

洲崎方面御視察

同 六時三十分頃

御歸艦

二見港御碇泊

○午後六時御微行トス

七月三十一日(日曜)

午前八時

小笠原ニ見港御出港

又復ノ前係ヨリ七月三十一日夕刻母島(御廻航ノコントロール)

同 十時三十分

母島沖港御入港 (三十分)

同 十一時

継載水雷艇ニ御乗艇 (十五分)

途中解ニ御移乗

同 十一時十五分

沖村飯橋橋より御上陸御後歩 (五分)

沖村尋常高等小學校

午前一二三御着 (十分)

一二三御登 御後歩 (十分)

八月一日（月曜）

午前八時

成續品並物産御覽
萬歳三唱

口久石場御通過 午前一二四。御通過 御徒歩（十分）

午前十一時五十分

沖村假棧橋より御乗船 解（十五分）
途中艦載水雷艇ニ御移乗

午後十一時五十分

御歸艦

御召喚
御晝餐

午後一時三十分

艦載水雷艇ニ御乗艇（十五分）

南京濱御視察

午後二四五御着
同 六一五御登（三十分）
（十五分）

午後二時三十分

御歸艦

母島沖港御碇泊

○午後八時御微行トス

母島沖港御出港

天候ノ關係ニテ七月三十一日夕刻母島沖港御出港

御航海

ノ下マニ

八月二日(火曜)
御航海

八月三日(水曜)

午前九時

御碇泊

佐伯湾御入港

午後六時

御倍食

八月四日(木曜)
朝

佐伯湾御出港

夜

豊後水道沖ニ於テ聯合艦隊ノ
晝夜間ノ戦闘射撃御覽

佐伯湾御入港

佐伯湾御碇泊

八月五日（金曜）

朝

佐伯湾御出港

豊後水道沖ニ於テ聯合艦隊

爆撃實驗御覽

豊後水道沖御發

御航海

八月六日（土曜）

午後零時三十分

鹿児島縣奄美大島名瀬沖御着（四十五分）

同 一時十五分

艦載水雷艇ニ御乗艇（三十五分）

途中解又ニホートニ御移乗

同 一時四十分

名瀬町假橋橋ヨリ御上陸御徒歩（十分）

鹿児島縣大島支廳

午後一五〇御着（三十五分）御徒歩（五分）
同 二一五御發

拜謁
養上

八月七日（日曜）

物産御覽

名瀬舟常高等小學校 午後六二〇御着（五分）御徒歩（十分）

成績品御覽

萬歳三唱

大島支廳前公園 午後六三五御着（五分）御徒歩（十五分）

御展望

午後二時五十分

名瀬町飯棧橋ヨリ御乗船又ハボート（三十五分）

途中艦載水雷艇ニ御移乗

同 三時二十分

御歸艦

同 四時

鹿児島縣奄美大島名瀬沖御發

同 七時

古仁屋港 御入港

古仁屋港御碇泊

風波荒キトキ名瀬沖御着艦迄名瀬町御上陸御取止メノコ
トアルヘシ

八月八日(月曜)

午前八時五十分
同 九時

艦載水雷艇ニ御乗艇(十分)

要塞司令部 榎橋ヨリ御上陸御徒歩(十分)

奄美大島要塞司令部 午前九時一〇分御着(三十分) 御徒歩(五分)

拝謁
奏上

古仁屋舟常高岸小學校 午前九時五十分御着(十五分) 御徒歩(十分)

成績品等御覽

萬歳三唱

御展望所 午前一〇時御着(十分) 御徒歩(三十分)

御展望

午前十時四十分 要塞司令部 榎橋ヨリ御乗艇 艦載水雷艇(十分)

同 十時五十分 御歸艦

古仁屋港御破泊

。午後御微行ヨリ御上陸ノコトアルニ

○御微行ヲ御上陸ノコトアルニ

午後四時

御航海

古仁屋港御出港

八月九日（火曜）

御航海

八月十日（水曜）

午後二時

同 三時

同 三時 十分

同 三時 十五分

同 四時 十分

同 五時

横須賀軍港御入港（二時同）

艦載水雷艇ニ御乗艇（十分）

逸見埠頭ヲ御上陸（五分）

横須賀驛御発車 客延別車（二時同五分）

東京驛御着車 自動車（二十分）

赤坂離宮御着

七月三十日小笠原附近御着ノ際風波荒キトキ同島御立

齊御取止方ノ上麻見島縣有明湾ニ御齊港ノコトニ御變
更八月三日午前九時佐伯湾御入港アラセラル



巻二九〇

7 22
年 8

納見

近副壹第三〇七號

供奉近衛將校變更ノ件報告

昭和二年七月二十一日

近衛師團長

津野

陸軍大臣 白 川 義 則 殿

七月十九日近副壹第三〇四號ヲ以テ報告ノ供奉近衛將校中左記ノ通り變更シタルニ付キ報告ス

左記

陸軍歩兵大尉	遠藤徳次
同	矢野俊雄
	ニ

2. 7. 22
56
陸軍部

近衛師團長

陸軍



壹二九〇 三三

東警參第二〇號

天皇陛下聯合艦隊演習行幸 際東京市内ニ

於テハ陸軍礼式ニ依ル儀式ヲ施行セサル件通牒

昭和二年七月廿二日 東京警備參謀長中岡彌高

陸軍省副官中村孝太郎殿

天皇陛下来七月二十八日午前八時五十五分東京驛御發車

聯合艦隊ノ演習御覽ノ為行幸来八月十日午後四時四十

分同驛御着車還幸被為在節東京市内ニ於テハ陸軍

礼式ニ依ル儀礼ハ之ヲ為スニ及ハサル上旨御沙汰アリタル

ニ付撥命通牒ス

事件多岐ニ及ビ一級ノ修達セリ

レタシ 七月二十日 軍事課

電着ヨリト



陸軍

次官より東京警備司令官へ通牒案 (建案)

天皇陛下今般聯合艦隊演習御覽ノ為行
幸ノ際東京市内ニ於テハ陸軍禮式ニ依ル儀
禮々之ヲ為スニ及ハサルニ御沙汰アリタルニ付
承知セラレ度

三二四五



9020

卷第一九〇號其九

昭和二年七月二十日

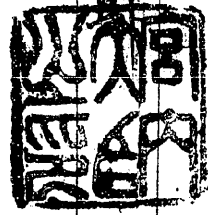
昭和二年七月二十日

宮内大臣 一木喜徳郎

陸軍大臣 白川義則殿

通牒

今般聯合艦隊演習行幸、際東京市内ニ於テハ
陸軍禮式ニ依ル儀禮ハ之ヲ為スニ及ハサル旨
御沙汰相成候



21
861
軍專課

宮内省

大臣ヨリ近衛師團長へ達案 (以下陸曹)
 天皇陛下今回聯合艦隊演習御覽、爲行幸、際
 各地ニ於ケル御徒歩御列別紙、通被是此旨心
 得ヘシ

次官ヨリ第一第六師團參謀長及憲兵司令官へ通

牒案

前同文 但シ、内ヲ承知セラレ度ニ作ル

陸軍省 三三三四號 七月廿四日



6020

壹二九〇

宮内大臣官房庶務課第七〇四號

昭和三年七月十八日

宮内大臣官房庶務課長男爵白根松

陸軍省副官長

今般研令般隊演習ヲ幸シ付多岐ノ地ニ於テハ
以列ノ為儀通ニお宣ヒ

納見
2 7 19
午 8 時
庶務課

2 7 19
367
軍事課

補付納

宮内省

0120

鐵道省高等官

聖上

供奉宮内高等官近衛將校其他

驛構内御徒歩御列

横須賀驛 逸見埠頭間御徒歩御列

鎮守府副官

鎮守府司令長官

内舎人

侍從職御用掛

近衛侍校

聖上

供奉宮内高等官其他

内舎人

侍從職御用掛

近衛侍校

近衛侍校

巾笠原及大島ニ於ケル御徒歩御列

警備官_{二人} 侍從武官

内舎人 侍從職御用掛 近衛侍從

聖上

供奉官_{内舎人} 地方長官 其他

内舎人 侍從職御用掛 近衛侍從

横須賀驛 逸見埴頭間御徒歩御列

内舎人侍從職御用掛近衛將校

鎮守府副官 鎮守府司令長官 聖上 供奉宮内高層官其他

内舎人侍從職御用掛近衛將校

小笠原及大島ニ於ケル御徒歩御列

警備官^ニ侍從武官

内倉人侍從職御用拭近衛將校

聖上

供奉宮^ニ高等官
地方長官
其他

内倉人侍從職御用拭近衛將校

不審官等別紙

小笠原及大島ニ於ケル御徒歩御列

内倉人侍從職御用拭近衛將校

警察官ニ侍從武官

聖上

供奉官及高等官
地方長官
其他

内倉人侍從職御用拭近衛將校

2120



壹二九〇二

四〇五

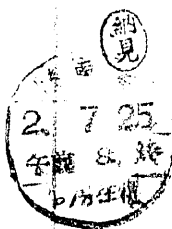
警衛計画ノ件報告

昭和貳年七月廿參日

憲兵司令官峯

陸軍大臣白川義則殿

天皇陛下豊後水道沖ニ於ケル聯合艦隊ノ戦闘射撃及爆撃實驗御覽ノ御途中小笠原島其他一行幸被爲在ニソ中憲兵ハ別紙計画ニ基キ警衛ニ殿ス尚小笠原島派遣者ハ七月十六日午後二時横浜出帆ノ近海郵船會社汽船ニテ出發十九日文島ニ到着二十一日特務曹長以



0718

下田名ヲ母島ニ派遣セリ
右報告ス

6110

0510

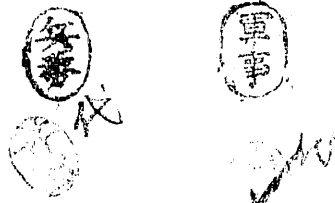
憲兵警衛計画

備考	吉仁屋	名瀬	佐伯	志布志	母島	父島	横須賀駅 見林橋間	東京 横須賀 間各駅	東京市 内御道筋	警衛人員		警衛者 差出隊名	摘 要
										將校	下士 卒兵		
本表、外東京、横須賀間、憲兵司令部及東京横須賀兩憲兵隊長 古仁屋、八熊本憲兵隊長、扈從スルモノトス	一		一	一		一	一	二	二	二	計	七月十六日午後三時横須賀 近海郵船会社船ニテ出発 軍艦春日ニテ候隊スルモノト 又 御召艦御發航ト同時ニ警衛 配置ヲ撤シ直ニ吸隊スルモノトス 御着二日前ニ到着八月七日夕御召 艦發後直ニ全部古仁屋ニ赴ク モノトス 御着二日前ニ到着八月七日夕御召 艦發後直ニ全部古仁屋ニ赴ク モノトス 御着二日前ニ到着八月七日夕御召 艦發後直ニ全部古仁屋ニ赴ク モノトス	
	五	二	二	二	二	二	二	一六	三	一	計		
	四	二	二	二	二	三	二	二〇	三	二	計		
	一		五	五	四	八	二	三七	八	四	計		
			四				五	七	四	四	計		
		熊本			東京			横須賀	東京	東京			

憲兵警衛計画

備考	古仁屋	名瀬	佐伯	志布志	母島	父島	横須賀駅-遠見棧橋間	東京-横須賀間各駅	東京市内御道筋	警衛人員		警衛者 差出隊名	摘 要
										將校	下士上等兵		
本表、外東京-横須賀間、憲兵司令部及東京横濱両憲兵隊長 古仁屋、八熊本憲兵隊長扈從スルモノトス	一		一	一		一	一	一	二	一	計	七月十六日午後二時横濱發、近海郵船会社船ニテ出発、軍艦春日ニテ収隊スルモノトス 御召艦御発航ト同時ニ警衛配置ヲ撤シ直ニ收隊スルモノトス 御着二日前ニ到着シ八月七日夕御召艦發後直ニ全部古仁屋ニ赴クモノトス 御着二日前ニ到着シ八月七日夕御召艦發後直ニ全部古仁屋ニ赴クモノトス 御着二日前ニ到着シ八月七日夕御召艦發後直ニ全部古仁屋ニ赴クモノトス	
	五	二	二	二	二	二	二	一六	三	計			
	四	二	二	二	二	三	二	二〇	四	計			
	一〇	四	五	五	四	八	二五	三七	八	計			
			熊本			東京	横濱	東京	東京				

1220



壹二九〇

三〇五〇

昭和二年七月十八日

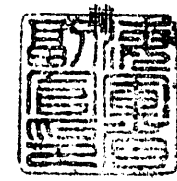
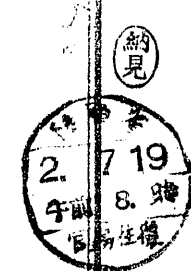
海軍省副官 小 根 和

陸軍省副官中村孝太郎殿

小笠原島派遣憲兵歸還ノ際軍艦便乗ノ件

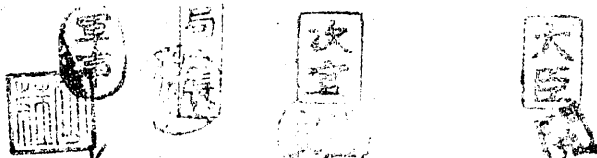
七月十五日附陸普第三一一三號御照會ノ本件御來意ノ通軍艦春日ニ
便乗許可相成候條御了知相成度

右通知ス



海軍

0722



陸二九〇三

電報譯

八月一日午前八時

午後二時

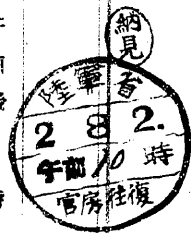
陸軍省

陸軍大臣宛

發信者

第一師團長

陸下一日午前八時御後線濃ハシク
母島御後



第

號



陸軍



老 二 九 〇 一 凡

御警衛憲兵歸還日次変更ノ件通牒

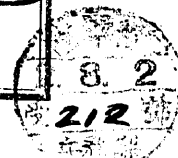
(八月二十日午前十一時
海軍省副官電話)

小笠原島ニ派遣中ノ憲兵ニ軍艦春日ニテ八月
三日横須賀着ノ豫定ノ處海軍側ノ都合ニヨリ
四日早朝歸着ニ變更ス

憲兵司令部ニ通知請

長谷口	波田
山田	井出
中富	服部
森	新妻
佐々木	橋本
田山	萩

納見



陸 軍

0725



第 二 九 〇 號

電報譯

八月

二日

午前

九時

〇〇分

著

發

第 二 號

納見

省 4
8. 36
軍 課

高級副官宛 發信者 父島要塞司令官
行幸途テ滞リ無ク終ル。

為之

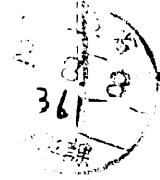
陸 軍

9220



卷二九。六

陸軍省 第五二三號



小笠原行幸ニ關スル件報告

昭和貳年八月 六日 第一師團長和田龜

陸軍大臣白川義則

天皇陛下小笠原行幸ニ就

別紙ノ通報告ス

七月三十日

一、七月三十日午前八時三十分御召艦山城小笠原
 島父島二見港入港スルヤ直々ニ御召艦ニ伺
 候シ 天機ヲ奉伺ス

一、午前九時十五分御乗艇艦載水雷艇ニ陪
 衆供奉シ午前九時三十分御上陸後扈
 從シ同島大村尋常高等小學校門前ニ於
 テ拜辭シ父島要塞司令部ニ先行シ午
 前九時五十分要塞司令部行幸被爲在
 テ奉迎シ爾後別紙人員ニ對シ拜謁ヲ
 賜ハリタル後師團長、要塞司令官軍狀

ニ就キ上奏ス

一、午前十時奉送シ爾後小笠原支廳、農事
 試験場、亀養殖場、行幸ニ扈從シ午前
 十一時三十五分大村假棧橋ヨリ御乘艇御
 歸艦ヲ奉送ス

一、午後一時十五分捕鯨事業場假棧橋御上
 陸ヲ奉迎シタル後奥村海軍無線電信所、
 小笠原開拓記念碑及連樹谷御視察ニ扈
 從シ午後四時扇浦假棧橋ヨリ御乘艇ヲ奉
 送ス

一、午後六時師團長並、要塞司令官ニ御陪食

被仰付尚師團長並要塞司令官ニ御下賜
品アリ

七月三十一日

一午前八時御召艦、陪乘ヲ許可セラレ扈從ニテ
午前十時三十分母島沖港ニ到着シ午前十一
時御上陸ニ扈從ニ沖村尋常高等小學校
行幸口ニ石場御視察ニ扈從ニ午後零
時五分御歸艦ヲ沖村假棧橋ニ奉送ス
一午後一時三十分南京濱ニ於テ同濱御視察ヲ
奉迎シ午後四時御歸艦ヲ奉送ス

八月一日

一、午前七時御召艦ニ伺候シ天機ヲ奉伺ス
 同七時三十分師團長、要塞司令官並ニ幕僚
 ニ拜謁ヲ賜リ直々ニ御召艦ヲ拜辭シ軍
 艦春日ニ於テ午前八時御出港被為在ヲ奉
 送ス

別紙

拜謁人名

職官

氏名

第一師團長

陸軍中將

和田龜治

父島要塞司令官

陸軍砲兵中佐

安達十六

第一師團參謀

陸軍砲兵中佐

平山繁

第一師團參謀

陸軍騎兵少佐

熊野利助

父島要塞司令部兼部員

陸軍砲兵大尉

小林蕃

父島要塞司令部員

陸軍二兵中尉

松尾團藏

東京憲兵隊分隊長

陸軍憲兵少佐

茅野正大

豫備役

陸軍騎兵少尉

淺沼大之助

豫備役

陸軍歩兵少尉

伴善居

陸軍

大臣

次官



2820

電二九〇反

電報譯

八月七日午後

一時十五分著

陸軍大臣宛

發信者

第六師團團長

天皇陛下ニ於カセラレテ御豫定ノ如ク

御檢察願ハシク奄美大島要塞司令

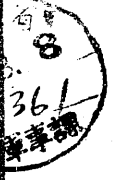
部ニサガリウコウ遊サレ諸事滞リナク終

了ス

納目



第三號



陸軍

大臣

次

陸軍

0733

陸軍省
警備部
第四七九號
一九一九

陸軍省
28.17
午前8時
陸軍省

昭和二年八月十六日
憲兵司令官 峯幸

陸軍大臣白川義則殿

聖上陛下八月一日父島御出港御還幸被為在タルカ
支廳島民其他ノ感激状況左記ノ通報告ス

左記

教育奨励資金御下賜

聖上陛下 行幸ニ際シ小笠原島父島西島ニ教育

奨励資金トシテ金壹千円ヲ御下賜相成リタリ

支廳長高橋延壽ハ八月三日關係村世話係學校長

ヲ支廳ニ招致シ 聖旨ヲ傳達スルト共ニ之レカ保管
 方法ヲ協議シタルニ西島四ヶ村ニ分配説、支廳保管
 説等アリテ遂ニ決定ヲ見サリシモ大体ニ於テ支廳ニ保
 管シ獎學ノ必要ニヨリ支出スルヲ妥當トナシ居ル模
 様ナリ

ニ御下賜品ニ就テ

ハ支廳職員ニ對シ御紋章入ノ煙草、御下賜アリタ
 リシヲ以テ支廳長ハ其一部ヲ歸化人十三世帯ニ一
 本宛分與シタリ然ルニ之等歸化人ハ聖旨、有難キ
 ニ感激シ左ノ言動ヲ洩シタリ

「天皇陛下ハ有難ク、行幸當日、汚イ私達、部

落ヤ吾々ノ直ヲ前ヲニコクト御話シ遊ハサレツ、
御通りニナリ又昨日(八月四日)ハ御紋章入ノ煙草迄
戴キマシタ此レハ私カ家ノ家寶トシテ永久ニ保存
スルト稱シ彼等歸化人ハ日本臣民トシテ隔ナキ
聖旨ニ感激シ衷心ヨリ歡喜シ居レリ

又小笠原水産株式會社營業主任青野正三郎父島
大島前世話掛久世延吉歸化人牧師ジョセフゴンサレス
ノ三名ハ父島開拓功勞者トシテ拜謁ノ光榮ニ浴シ
且ツ御菓子一拵ヲ下賜セラレ聖旨ノ有難キニ感泣
シ記念品トシテ何レモ之レヲ寫眞ニ撮影シ近親者
昵懇者ヲ招キ披露宴ヲ催シタリ

三其他

郵便局長小松正止「今回、行幸ヲ記念スルト共ニ島民ニ貯蓄心涵養、目的ヲ以テ「行幸記念貯金」ノ勧誘ヲ爲シタル處八月七日締切迄総數百八口金額六十六円餘ノ應募ヲ得タリ

(了)